

ICT教育通信

令和3(2021)年10月5日
第6号 小郡市教育委員会

講話 「偏見や差別の解消のために

～フエイクやヘイトと結びついた現実とどう向き合うか～

九州大谷短期大学 人権論研究会 主査 組坂 幸喜 さん

8月末から9月には、「タブレット等を活用した学習」が各学校で浸透し、子どもたちのICT活用の幅が広がってききました。それに伴い、様々な活用上の課題も見えてきていくところですが、情報の使い方・使われ方・適否・正当性を見極め、「人が傷つくことにならぬか・自分が傷つくことにならぬか」という視点から正しく判断し、適切にICTを活用しようとする態度を育むことが大切です。そこで、第4回ICT推進委員会では、組坂幸喜さんに上記テーマで講話を頂きました。

<講話要旨>

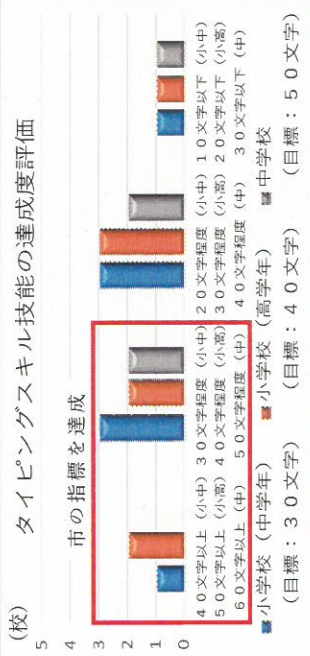
- 雑誌や街角、ネットなど日常の中にある、偏見や差別に基づく見下しや否定的態度(マイクロアグレッション)に疑問を持つ力を育てることが必要。例えば、「美白」という情報に接すると、白い肌が良い、黒い肌は良くないという意識になる。私たちは、「無意識に人を差別しているのではないか」という認識が必要。
 - インターネットの世界(サイバー空間)で行われていることは、現実の世界(フィジカル空間)で行われていることが表れているととらえる。東京都M市の事案でも、チャットでの管理体制の問題(パスワード設定等)が大きく報道されているが、他者を傷つけるチャットの具体的な書き込みを見た子どもがいはるはずで、そのときに声をあげられる子どもたちの集団づくりができているかを見つめるべき。
 - 情報を読み取る際には、下記の視点を大切に教育にあたってほしいと思う。
 - ・誰がその情報を流しているのか
 - ・なぜその情報を流しているのか
 - ・同じ情報を他の人だったらどう表現するか
 - ・何が流されていない情報なのか
 - ・他の伝え方はなかったか
 - インターネット上に課題があるから使わない」ではなく、逆に、これからはインターネットやチャット等の課題を活用し、より良い使い方ができるような教育を考えよう。子どもたちが、「おかしなことがあるよ。」「いけないことではないか。」など、主体的に『自分事』として受け止め、考え・判断し、先生などに指摘できるような教育をつくっていくべきである。
- 社会の問題を人権という視点から見、考えていくことができるような教育を進めていくことが大切。

《先生方の感想より》

- ・ 隠したり、させなかったりすることでは、本質としては問題が解消しないと気が付きました。これまで、部落問題学習で大切にしてきた気付け力、おかしさを解消していく力を育てていき、インターネット上のおかしな事象をもとに学んでいくことを行っていきたいと思います。そのためにも、まずは、自分自身の人権感覚を磨くことを大切にしたいと思っています。
- ・ 差別をすることのおかしさに気づけること、日常にあるおかしさに気付ける感覚を、私自身も高めていきたいです。
- ・ 情報収集は、クリティカル・シンキングで取り組まなければならないという考え方を、情報リテラシーを育む中で育てていかなければならないと改めて思いました。

令和3年度小郡市ICT教育に係る評価(前期評価)

<タイピングスキル技能の向上について>



【取組例】

- ・朝の活動
- ・帰りの時間
- ・休み時間に主体的に授業の始めや終わりに一斉に
- ・授業としてカリキュラム化
- ・タイピング検定を定期で実施

【タブレット端末未活用に関する保護者の声】

- ・子どもが使いこなせている姿に感動した。
- ・ICTに期待している。
- ・親も一緒に子どもが学習の様子が分かってよい。
- ・タイピングが速くなった。
- ・ICTへの関心が高まった。
- ・子どもが主体的に学習に取り組んでいる。
- ・タブレット活用によって、コロナや入院等での学習が遅れないことに期待している。

<今後の課題>

- 1 授業における効果的なタブレット活用の在り方を探る。
→各学校での授業づくりについて日常的に話題にし、効果ある取組をシェアする。
- 2 Teams等を活用する際に、情報モラル上の課題が生じている。
→教育委員会で、必要な一定の制限をかける方向で検討。
→情報モラル教育については、年間指導計画に基づき、すべての学級で実施する。
- 3 ICT支援員について、学校のニーズに応じた活用ができるように。
→市教委で派遣計画等を早めに学校に周知。配置時間は学校規模に応じて再検討する。
- 4 授業中に回線が途切れるなど、校内のWiFi環境等の整備充実が必要。
→10月末を目途に職員室他希望の教室等について完了予定。
→その他の通信課題は今後集約し、予算化につなぐ。



大原中学校 矢野晴一 校長 (小郡市ICT教育推進校)

私たちは、常に「便利さの裏側にある危険性」「知識・技能の高まりの裏側にある危うさ」と向き合いながら日常生活を送っています。タブレットを活用した学習活動が浸透しはじめた今だからこそ、「自分の人権を守り、他者の人権を守る」という視点を忘れずに、一人一人が考えて行動につなげていかなければならないと考えます。あらためて、ICT活用においては、子どもも大人も「目的(何のために)」「場(どのような活動場面で)」を明らかにして使っていくことが大切だと感じています。